

## 1 社会・治安情勢

当国では在留邦人が多数居住するルサカ市を取り囲むようにコンパウンド（貧困層地区）が存在し、儀式殺人事件などの凶悪犯罪が発生しやすい傾向にある。貧困率は依然として高く、特に首都ルサカ市、南部州リビングストーン市観光地区、コッパーベルト州の主要都市等を中心に失業者やエイズ孤児等が溢れており、貧困に起因する犯罪が後を絶たない。

## 2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 在留邦人が多数居住し比較的安全とされているルサカ市においても銃器を使用した複数犯による住居侵入強盗、車両強盗、路上強盗が断続的に発生しており、特に、夕方から深夜にかけての犯行が多い傾向である。日中であっても人の集まる所では、スリや置き引きなどが発生しており、最近では偽札を使用した犯罪も増加している。

### (2) 邦人被害事案

ア 5月2日深夜、ルサカ市内在住の在留邦人宅の窓より何者かが貴重品（事務所の鍵及び事務所金庫の鍵）を窃取。在留邦人が犯行後に屋外に出た際に覚知。現地警察による現場検証を行うも未だ賊はつかまらず。在留邦人は事務所金庫の鍵を交換するなどし、二次被害防止対策に追われた。

イ 5月17日深夜、邦人旅行者がルサカ市内のホテルで就寝中に、現地警察の家宅捜査を受けた。捜査目的は不法滞在者の摘発であったが、現地警察は長時間にわたり家宅捜査をおこなった後、金銭（チップ）を邦人旅行者に要求、邦人旅行者は金銭を渡さなかったが、長時間にわたり複数人の警察官より金銭を要求された。後日、当邦人旅行者が大使館に相談に訪れたことにより覚知した。

ウ 6月19日、ルサカ市内にある邦人企業事務所に深夜空き巣が入り、パソコン4台、カメラ1台、現金少額を盗まれるという事案が発生している。同一敷地内では、2週間前にも同様の事案が発生している。

### (3) 邦人以外の被害事案

ア 4月25日、ルサカ国際空港で一般で持ち込みが禁止されている医薬品を違法に持ち込もうとしたとして逮捕者が出た。ルサカ国際空港は、多くの在留邦人が利用する。こういった薬物の違法な持ち込みでの検挙者は、ルサカ国際空港では年々増えている。

イ 4月26日、コッパーベルト州チンゴラにて買い物に向かった女性が8人の集団にレイプされる事件が発生した。被害者は命に別状はなかったが、同州には多数のJICAボランティアや在留邦人がおり、懸念される事案である。

ウ 5月23日、北西部州のムフンブウェにて銃（AK47）を使用した殺人が発生

した。現場では2つの空の弾倉が見つかった。最近、北西部州では銃（AK47）による犯罪が増えている。一因としては、隣国アンゴラから銃（AK47）が不法に持ち込まれている現状がある。

エ 5月27日、コッパーベルト州ンドラにて女性の遺体が発見された。女性は発見される前の週より消息が不明となっていた。ンドラには在留邦人が多数居住していることもあり、注意が必要な事案である。

オ 6月26日、警察はカリングリガ、ヘレンカウンダ、ムテンデレの3つのコンパウンドに対して、夜間の警ら強化を各警察署に指示を出した。理由としては、同地区においてギャングによる犯罪が増加傾向にあることが主な理由である。同地区は在留邦人が居住する地区に密接しており、ギャングによる犯罪が在留邦人居住地区で起こってもおかしくない。

### 3 テロ・爆弾事件発生状況

当該事件の発生は認知していない。

### 4 誘拐・脅迫事件発生状況

当該事件の発生は認知していない。

### 5 日本企業の安全に関する諸問題

当地の邦人企業の事務所に深夜空き巣が入り、事務用品が盗まれた。現場の警備員は進入に気付かなかったが、同敷地内では、その2週間前にも空き巣による窃盗事案があったことから、警備員が共謀していた可能性も否定できない。

ザンビアにおいて邦人企業が進出する際は、あらかじめ情報収集を行い、教育と訓練を受けた警備会社を選定することが最も重要となる。